

令和7年度第1回大磯町スポーツ健康会議

- 日時 令和7年10月21日（火） 午後7時～午後8時10分
- 場所 大磯町保健センター2階研修室
- 出席者 会長、副会長ほか8名
- 事務局 町民福祉部長、スポーツ健康課長、スポーツ健康課職員
- 傍聴者 1名

議題

第2期けんこうプラン大磯令和6年度進行管理書（案）について
事務局：（資料説明）

●意見及び質疑

【会長】

24番の「競技大会等の招致・開催」というところがE評価となっている。令和5年度も令和6年度も実施なしとなっているが、この先、実施なしのものをずっと続けていくことについてどう考えているか。

【事務局】

この競技大会等の招致・開催については、実際に今、地元のプロスポーツというところで、SEISA OSA レイア湘南FCという女子サッカーのなでしこリーグのチームやプロサッカーチームの湘南ベルマーレがあるので、観る機会を増やすというところで、試合を開催する情報を発信するなどを目標設定とし、町民にプロスポーツに触れる機会、観る機会をふやしていくというような形で考えていきたい。

【会長】

そうすると、次に向けては、具体的な事業の計画を少し変えていくということか。

【事務局】

計画自体はなかなか変えにくいので、目標設定として、令和7年度以降で、具体的に、例えばホームページに載せていくなど変えていきたい。

【会長】

【課題・今後の取組み】のところで結果としてできなかつたというのは、仕方がないが、今後、どのように取り組むのかというコメントがとても大事だと思う。
今回はできなかつたが、今後はこのように改善していきたいということをもう少

し具体的に書くと、来年度以降このような形で取り組む予定ということがわかるので、他のところも、ランクがAやBのところは頑張ったなとか、現状維持とか改善の見込みがあるというところで、良いかもしねないが、CやD、Eをどのように考えていくのかということが大事かと思う。それぞれ確認をしていただき今後どのように評価していくのかをご検討いただきたい。

【委員】

スポーツの競技大会の誘致というのは本来はやって欲しいというところではある一方で、誘致したので、住民がどれくらい来てくれるのか、今度はそれを目標で達成率を決めると観に来なかつたので、結局Eという形になつてしまふのであれば、お金もかかることなので、思い切ってやらないというのを1つの選択肢としてはあると関係者だから思うところである。大磯町の中で完結するのではなくて、観に行くことに対して、チケットがもらいたら配るなど、そういったことであればスポーツに触れてもらうという目標自体は達成して、地域の中でやるというのは少し達成しないけれども、そういった方法もあるだろうと思うのでそこを効率的に、柔軟に対応していただきたい。

これが例えれば予防接種とかであれば、この会議でもいろいろ議論されているが、お仕事をされている皆様の中で、住民のために重要なことで、絶対やらないとまずいというところよりは、あえて重要度は落ちるとは思うので、そこは無理しないで、来年は乗り越えようというように、思い切って、中止、または形を変えるというところはチャンスなのかなと思う。そのため、この評価だけにとらわれずに、思い切って今までと違う形を考えて、もしくはそういったことを相談するということ自体、その考え方を変えるための打ち合わせを開くとか、そういったことが必要なのかなと思ったので、提案させていただいた。

【委員】

48ページについて。令和5年度も令和6年度もおおいそ骨太ボランティアの会に会員が入ったが、高齢の方であった。自分自身もそうだが、先が見えていて、今後のことがあるが、人数的にはコロナの前に戻ってきている。

皆さんがどういうことに興味あるのかなということで一生懸命やってはいるが、やっぱり、先が見通せないということで、この新規入会だけを指標とすると、心配なところがある。骨太ボランティアの会としても頑張るが、新しいボランティアが来て、若い方が入って頑張ってほしいと思う。

【会長】

地域で活動されている団体、ボランティアに参加する方の年齢が上がる一方で、仕

事を持っている方もだいぶ多くなってきてるので、地域でボランティア活動する人たちが全体的にだんだん少なくなってきている傾向がある。おそらく、大磯町だけの問題ではなく他市町村も同様の問題を抱えている。そのため、周知や募集など、また、いくつかの団体をグループにしてやっていく等、工夫が必要なのかもしれない。

【委員】

一緒に参加することは楽しいが、面倒なことはやらないという声がある。ボランティアになってほしいというと難しいようである。

【事務局】

広報の記事の掲載などにより、会員の方が増えるように、町も協力していきたい。

【委員】

20 ページの妊産婦歯科健診などのところで令和5 年度がA で、令和6 年度は40 件から30 件と下がっているので、C という評価だが、出生児は令和5 年度や令和6 年度は少なくなっているのか。それとも同じくらいか。

【事務局】

令和5 年度の出生数は、135 人となっており、令和6 年度が98 人ということで、出生数が下がっている状況である。

【委員】

そうなると、絶対数が減っているおり、その評価を最初の計算方式で評価するので、しょうがないと思うが、それを加味して評価しても良いのではと思う。

【会長】

この受診率としては比率で出しているので、そこまでは低くなっていないと思うが、件数とすると下がって見えてしまうという理解で良いか。

【委員】

そのとおりである。

【事務局】

担当課である子育て支援課にも聞いてみたが、【課題・今後の取り組み】にもあるように、どうしても産婦歯科健康診査が数字としては落ちてしまっている。そのため、どのような形で進めたら良いかというところで、託児の調整が必要ではないかとい

う意見は聞いているので、積極的な取り組みを検討しているようである。

【委員】

妊婦さんになったときに健診があり、口腔内の健康に気を付けていただいて、その変化を産後で受けていただきたいという周知をしていただければと思っている。

【事務局】

承知した。担当課に伝える。なお、母子手帳を交付させていただくときに各種健診があるという旨はお伝えさせていただいている。

【委員】

26 ページ、42 番の予防接種事業の肺炎球菌が 17.2% となっており、どのような計算で C 評価となっているのかわからない。子供と高齢者で分けていない。そうすると、受診の勧奨などにも関わってくる。

【事務局】

やはり対象も変わってくるので、まず、子どもの予防接種に関しては、必ず打たなければならないものとなり、高齢者の方は任意となる。その部分については、分けて考えるような形で目標の設定については検討させていただきたい。

【会長】

30 ページの不育症治療費助成事業で令和 5 年度も令和 6 年度も E 評価となっているが、この評価の仕方がすごく難しいと思ったのが、こういう治療を受けない人がいるのは、ある意味、良いととらえられるし、必要な人に情報が行き渡らず利用できていないのであれば問題と思われる。この辺りはどのように考えれば良いのか。ただ、1 件が 0 件になったから E 評価というのも何かちょっと評価が違うような気がするがどう考えているか。

【事務局】

この目標設定に対しての進行状況としては、E という評価になっているが、その目標設定を違う形にしてはどうかというところを担当課の方に聞いているところである。

不育症治療費助成事業については、窓口に妊娠届を出しに来られた方に対して、事業の周知をさせていただいて、もし該当する方がいたら、受けていただくというような形だが、それが実際には該当がない。該当がないというところが良いのかどうかというところもあるので、例えば、こういう事業があるという周知をすることを

目標にしたり、その制度 자체を広めていくことを目標にしたりする方が、現実的ではないかと感じている。担当課にはヒアリングをしながら、今年度以降の目標設定について検討してもらいたいと考えている。

【会長】

66 ページの民間スポーツ施設の活用のところで令和5年度も令和6年度も実績なしとなっている。この部分についても御説明いただきたい。

【事務局】

以前は小松製作所という民間の施設があり、テニスコートなどを使わせていただいて、目標を達成できていたところだが、その民間施設がなくなった。今後、新たに民間のスポーツ施設を探さなければいけないというところだが、実際に大磯町内で施設を借りる場所があるかどうかというと、なかなか難しい。そのため、近隣の市町まで広げるかどうかというところを検討している。

【会長】

けんこうプランは長い期間の中で進行管理をしていくので、社会状況などがいろいろ変わったら、その当時に立てた目標もしっかりととした理由があれば変更してもいいのではないかと思っている。達成できない目標をいつまでもそのままにしていく方がおかしい感じがする。そのために会議を開いて、皆さんからご意見を聞いて、状況の変化があれば「削除」または「変更」という形でも良いのではないか。そこを含めて今後検討していただきたい。

【委員】

民間のスポーツ施設の話やスポーツ観戦の話もそうだが、この指針というのは、県からこのような形でというように町に下りてくるものなのか。

【事務局】

もともと国のそれぞれの計画があって、その下に県の計画があって、それに基づいて町の計画を策定している。

【委員】

国や県の計画を入れ込む形か。

【事務局】

各市町村の状況に応じた計画を立てていくという形である。

【委員】

スポーツ観戦の話があったときに、陸のスポーツなのか海のスポーツなのかわからなかつたが、プロを誘致することのメリットというのがすごくたくさんあると思う。夢を与えるというわけではないが、やっていかなければいけないし、E評価だからやめるというのは反対である。例えば、隣の平塚市や二宮町でも同じように計画にスポーツ観戦というのをやっていると思うが、何か情報はあるか。

【事務局】

平塚市や二宮町の計画のスポーツ観戦についての確認はできていない。

【委員】

他市町がやっていて、大磯町だけやめるというのも難しいのではないか。他市町と一緒にしなければいけないというのではないが、プロスポーツに触れる機会というのは、大事だなと思うので、E評価がA評価に向かってやっていかなければいけないとと思う。

【事務局】

国のスポーツ基本計画や神奈川県のスポーツ推進計画があり、誰もが「みる」、「する」、「ささえる」という目標がある。「みる」こともスポーツ、「する」こともスポーツ、「ささえる」こともスポーツというところであれば、プロアマ関係なく、大磯町スポーツ協会にも大会を実施していただいている、大磯町スポーツ推進委員にも自主事業でいろいろ企画をしていただいている。大磯チャレンジフェスタもそうだが、町民がスポーツをするきっかけづくりということで、いろいろなスポーツ教室等々もやっており、そういう部分では、先ほどあった大会誘致ということではなくて、スポーツができる環境を、「みる」ことも、「する」ことも、「ささえる」こともできるような環境を作っていくべきところで、今後、町としても、また進んでいければと思っているので、ご協力をいただければありがたい。

【委員】

66 ページ、114 番の 3 市 3 町広域行政推進協議会、公共施設総合利用事業のところだが、これは具体的にどのような取り組みか。また、評価のところにホームページの閲覧数とあるが、町のホームページにこういったサイトがあるのか。

【事務局】

町のホームページの中にはあるが、ページの場所がすこしわかりにくいところにある。これは政策課が行っている事業であるため、スポーツ健康課のホームページに

はないが、今年度にスポーツ健康課のホームページからリンクでこの事業に飛ぶようとした。そのため、令和7年度の閲覧数が少し伸びてくれればという期待を持つつ、この事業がわかりやすいような工夫をしている。

【委員】

閲覧数というのはこのホームページを見た数字か。

【事務局】

そのとおりである。この事業のホームページを見た数字である。

【委員】

大磯町としては、この3市3町の相互交流というのは具体的に何をやっているのか。

【事務局】

例えば大磯運動公園であったり、平塚総合公園であったり、大磯町民が、他の市町で同じ料金では使えるような形になっている。

【委員】

申し込み方法などもホームページにしているのか。

【事務局】

申し込み方法などはないが、例えば、各施設の町内料金とか町外料金とかあるが、町内と同じ料金で利用できる形になっている。

【事務局】

各市町が例えば平塚市、大磯町、二宮町、伊勢原市、秦野市、中井町で、公共施設を持っていて、秦野市の体育館であったり、運動公園であったりそういったところは、今の3市3町の枠組みの中で利用することができる。

ただ、周知の仕方を工夫しなければいけないということで今、閲覧数も伸びていないので、利用の方法がわからなければ、やりたいと思っている方も、引いてしまうところもあるので、町全体としてスポーツ健康課だけではなく、政策課も含めた中で、町民の皆さんにわかりやすい周知を心がけていきたい。

【会長】

貴重な意見だと思う。いろいろな周知方法を考えても行き渡らない難しさという

のがある。ぜひ工夫をしていただきたい。

【委員】

我々スポーツ協会でも、子どもがスポーツをするニーズというのはどんどん減っていると感じている。学校の部活動では、参加人数は減っているのか。

【副会長】

昔に比べれば、部活動の加入率は減っている。それはなぜかというと、地域のスポーツクラブに行くから部活動はやらないとか、他の習い事をやるから部活動には入らないという理由がある。部活動に入っていないからスポーツをやってないということではない。電車に乗って野球チームに練習に行くとかサッカーの練習にいくとか、部活動に入ってないからスポーツやってないということは、結論付けられないとと思う。

閉会